

とべ動物園まじめ行動計画

第2期

令和4年3月

愛媛県



目 次

1. 第1期までの取り組み	3
2. 計画策定趣旨	4
3. 基本方針(報告書より)	4
4. 取り組み方針	5
5. 分野別計画	11
6. ソフト・ハード別施策	15
・施設整備位置図	23
7. 年次計画	24

1. 第1期までの取り組み

ハード・ソフト両面からの魅力向上に向けた取り組みの検討

H29.9 総合プロデューサーの配置

H30.3 「とべ動物園魅力向上戦略検討委員会 報告書」作成

H30年度

開園30周年記念イベントとして戦略的に事業実施

開園30周年記念イベントとして、話題性のあるイベントや効果的な情報発信による広告宣伝を実施。

【主な内容】

《話題性のあるイベント》

- ・グランピング
- ・イルミネーション
- ・キャラクターアワード

《効果的な情報発信》

- ・えひめ Free Wi-Fi の整備

《魅力的な動物の導入》

- ・オランウータン
- ・フタコブラクダ

実効性のある短期の事業計画を策定

とべ動物園まじめ行動計画（第1期）（R元～R3）を策定し、着実に推進する。

★目標入園者数：**50万人**

★取り組み方針：良好な「とべ動物園ブランド」の構築

★到達目標：とべ動物園を知ってもらう。

★重点戦略：①集中的かつ積極的な戦略的情報発信、広告宣伝、話題性のあるイベントで、認知度向上
②人気動物の導入や魅力的な観覧環境の整備でブランド資産増進

R元年度

R2年度

R3年度

【主な内容】

《ソフト事業》

- ・俳句イベント
- ・グランピング（継続）
- ・秋の読書週間とのコラボ
- ・イルミネーション（継続）

《PR事業》

- ・Webによる情報発信

《獣舎整備》

- ・アシカ舎改修

【主な内容】

《ソフト事業》

- ・空き獣舎アートイベント
- ・トリックアート
- ・休園日プレミアムガイド
- ・イルミネーション（継続）

《PR事業》

- ・Webによる情報発信（継続）

《獣舎整備》

- ・アシカ舎改修（継続）

【主な内容】

《ソフト事業》

- ・雪まつり
- ・トリックアート（継続）
- ・イルミネーション（継続）

《PR事業》

- ・Webによる情報発信（継続）

《獣舎整備》

- ・サル・ヒヒ舎設計

《認知度向上に関するKPI》

- ・とべ動物園のHPを検索したユーザー数：（H30→R3）1.35倍（12月末時点と比較）

※コロナ休園期間中もアクセス数は上昇

- ・入園者数：

【H30年度】前年度を上回る。（460,308人）

【R元年度】GWの入園者数が過去5年間で最大。2月末時点では前年度を上回る。（454,888人）

【R2年度】コロナ休園明け6月以降3月末までは前年度を上回る。（357,693人）

【R3年度】コロナ休園明け6、7月及び、2度目の休園明け10～12月は過去5年間で最大

認知度向上

これまで実施した事業効果を持続させ、来園者が良さを実感しまた足を運びたいとなるような動物園を目指し、動物への興味が深まるような動物展示と、安全・快適に観覧できる環境整備を柱とした第2期の行動計画（R4～6）を策定し、入園者数の回復（55万人）に向けて引き続き取り組んで行く。

【平成 30 年度】

- ・平成 30 年度は、とべ動物園が開園から 30 周年という節目の年に合わせ、30 周年を祝う記念事業として、話題性のあるイベントや効果的な情報発信による広告宣伝を戦略的に実施した。

【令和元～3 年度】

- ・令和元年度に、とべ動物園魅力向上検討委員会報告書を基にした実効性のある短期の事業計画を策定し、第 1 期（令和 3 年度まで）の行動計画として、とべ動物園の認知度向上を目標に、引き続き話題性のあるイベントや効果的な情報発信による広告宣伝を戦略的に実施した。
- ・令和元年度末から新型コロナウイルスの感染拡大により、臨時休園やイベントの自粛などの影響があったが、臨時休園期間を除いた入園者数は前年度を上回り、特に令和 3 年度は過去 5 カ年で最高となるなど、第 1 期の取り組みとして成果があった。

2. 計画策定趣旨

【目的】

とべ動物園では、今後の将来を見据えた持続可能な動物園を目指し、「とべ動物園魅力向上戦略検討委員会」の議論を踏まえて、県内有数の集客観光施設としての魅力向上や、環境学習・情操教育の場の実現に向け、ハード・ソフト両面から魅力向上に向けた基本方策を報告書に取りまとめた。

本報告書の内容を踏まえた実効性のある短期の事業計画を平成 31 年 4 月に策定し、令和 3 年度までの 3 カ年を第 1 期の行動計画として、前述のとおり様々な施策に取り組んできた。

第 1 期で取り組んだ事業の実績や成果を踏まえ、とべ動物園の魅力が来園者に浸透し定着するよう、良好な「とべ動物園ブランド」の強化に向けた第 2 期の行動計画として実践していくことを目的とする。

【事業計画】

期間：（第 2 期）令和 4 年度～令和 6 年度（3 ヶ年）

3. 基本方針（報告書より）

目標：野生動物の保全や環境教育に取り組むとともに、何度も来たくなる魅力あふれる動物園を目指す。

将来にわたり、公立動物園として生物多様性確保の基地としての役割や、環境教育の拠点としての役割を果たすとともに、独自性にあふれた動物園に人が集い、たくさんの物に興味を持てる持続可能な動物園を目指すため、上記の目標を設定する。

基本方針1. とべ動物園の強みを活かした（独自性のある）動物園の実現
とべ動物園の立地状況や周辺環境、とべ動物園の持つ繁殖技術等のとべ動物園の持つ他にはない独自性を活かした動物園の実現を目指す。

基本方針2. 人が集い活力のある動物園の実現

対象者を広くとらえ、それぞれの人が自分に合った楽しみ方ができるように工夫を行うことで繰り返し訪れ、笑顔があふれ活力のある動物園の実現を目指す。

基本方針3. 動物と自然の関わりについて興味を抱かせる動物園の実現

動物への感性を育み、自然を大切にする心を養うことにより動物と自然の関わりについて興味を抱かせる動物園の実現を目指す。

基本方針4. 持続可能な動物園の実現

今後の将来を見据え経営的な視点に立ち持続可能な動物園の実現を目指す。

4. 取り組み方針

（1）「知ってもらう」から「良さを実感してもらう」へ

第1期で取り組んできた「知ってもらう」が、とべ動物園ブランドの構築に繋がっていると捉え、第2期では、来園者にとべ動物園の「良さを実感してもらい」、とべ動物園ブランドの強化と定着に繋げることを目指す。

そのため、第1期での事業効果を持続させ、これまで当たり前にあった動物園の良さや存在意義を改めて実感し、コロナ禍においても安全・安心で快適に利用できる動物園を目指し、入園者数の回復に向けて引き続き魅力向上に取り組む。

（2）何度も来たくなるよう、良好な「とべ動物園ブランド」の強化と定着

短期の事業計画策定に当たり、報告書の4つの基本方針に基づく17項目の取り組み項目を、以下のとおり、①早期に着手する取り組み、②中長期的な取り組み、③長期的に継続して実施する取り組みの3つに分類。

①早期に着手する取り組み

- 新たなターゲットに向けた取り組み
- 魅力的なイベントの創出
- 効果的な情報発信
- 広報・情報提供の充実

②中長期的な取り組み

- 安全・快適に観覧できる施設の整備
- 動物の生息環境整備
- 学習的・体験的な機能の充実

○視点を考慮した施設の整備

③長期的に継続して実施する取り組み

- 地理的特性を活かした施設連携
- 地理的特性を活かした県内の観光地や地元との連携
- とべの繁殖技術等を活かした動物の導入
- 海外の動物園との連携
- 希少種の保存に向けた取り組み
- 資本の強化
- 持続可能な運営体制の構築
- 飼育動物の安定的な確保
- 経営改善

第1期は、幅広い年齢層にとべ動物園を知ってもらい訪れてもらうことに重点を置き、また、近年増加している海外からの観光客や、比較的割合の少ない若い世代も新たなターゲットとし、話題性のあるイベントの実施や、デジタルマーケティングの手法を活用した様々な情報発信に集中して取り組んできた。

第2期は、第1期で取り組んだイベントや情報発信などの施策を継続的に実施しながら、とべ動物園を訪れていただいた来園者が、とべ動物園の良さを認識し、また足を運びたくなるよう、魅力ある動物展示や、安全で快適な観覧環境の充実、また、周辺施設との連携などの施策に集中して取り組み、第3期へとつなげる。

【重点戦略】

- ①第1期の取り組みで成果のあった、集中的かつ積極的な戦略的情報発信、イベントの広告宣伝などによる認知度向上に継続して努め、ブランドの浸透と定着を図る。
- ②魅力的で話題性があり、動物への興味がより深まるような動物展示や、安全で快適に観覧できる環境整備により、ブランド資産の着実な推進に努める。
- ③来園者の利便性を重視した園内の観覧環境の整備を行うことにより、来園者の満足度を向上させるとともに、良好な関係構築を図る。

【目標設定（R6年度）】

○年間入園者数

第1期では、新型コロナウイルス感染拡大により、臨時休園措置や行動自粛などの影響を受け、目標としていた50万人達成は困難な状況であるが、休園期間を除いた月毎の入園者数は、概ね前年度を上回っており、これまでの取り組みの成果と動物園に対する期待の高さを示している。

第2期（R4～R6）は、コロナ禍における新しい生活様式に対応した、安全・安心で快適な動物園を目指し、入園者数の回復を見込み、当初の目標である55万人を目標に取り組む。

○来園者満足度

アンケート調査による来園者満足度調査を行い、80%以上を目標とする。

○滞在時間の向上

動物園での滞在時間の1割アップを目指す。

○海外からの観光客を対象としたツアー

ウィズコロナを見据え、年間3本以上のツアーが実施されるよう働きかける。

○動物の個体数の維持

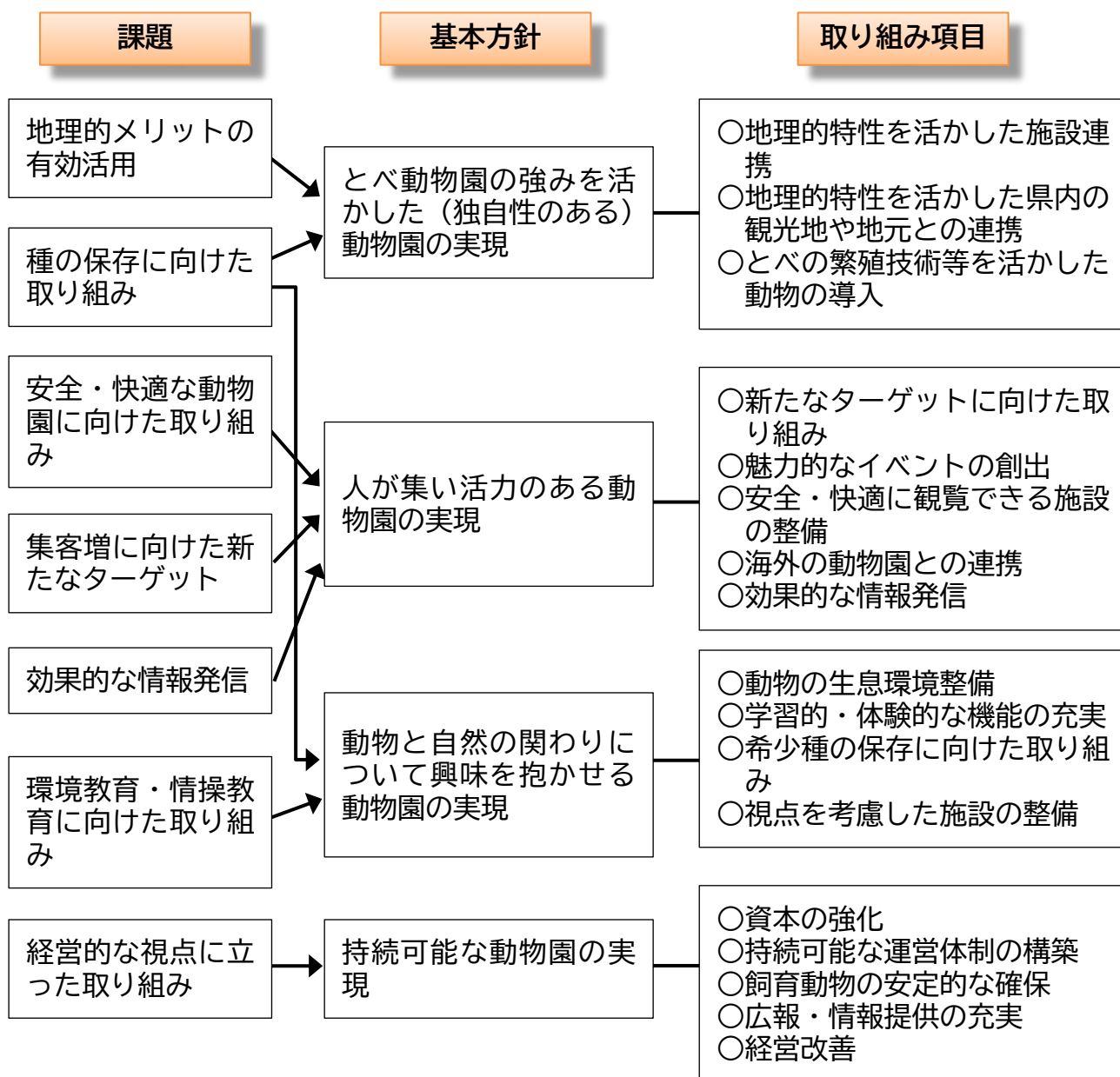
動物の継続的な繁殖に努め、個体数を維持する。

○環境エンリッチメント

動物が生息している自然環境を出来るだけ再現するとともに、動物本来の行動の多様性を引き出すことにより、動物の福祉と健康の更なる向上に努める。引いては、動物の心理的幸福度が向上し、延命や繁殖行動に繋がる。

■施策体系図

目標：野生動物の保全や環境教育に取り組むとともに、
何度も来たくなる魅力あふれる動物園を目指す。



■施策一覧

第1期から継続

第2期で追加

実施項目	実施時期		実施内容
	短期 (概ね5年以内)	中・長期 (概ね5年以上)	
とべ動物園の強みを活かした(独自性のある)動物園の実現			
地理的特性を活かした施設連携			
県内類似施設との年間共通パスポート等の発行	○	○	料金等類似施設と連携し年間共通パスポート等を発行
運動公園、えひめこどもの城と連携し共同イベントの開催	○	○	共同イベントの開催によるエリア全体としての相乗効果
えひめこどもの城との円滑な移動手段の確保	○	○	園路の整備や手軽に利用できる移動手段の整備
地理的特性を活かした県内の観光地や地元との連携			
動物園と県内の観光施設(道後温泉や砥部焼の里等)との相互誘致	○	○	無料送迎。割引サービス等のシステムづくり
地元産業(砥部焼等)を活かしたグッズの開発	○	○	ご当地ならではのグッズ開発
砥部町で滞在観光できる環境の整備		○	砥部町での宿泊環境等の充実
とべの繁殖技術等を活かした動物の導入			
とべの繁殖技術等を活かした希少種、絶滅危惧種の繁殖	○	○	とべの繁殖技術等を活かした希少種、絶滅危惧種の繁殖
飼育技術の確立や調査研究機能の強化	○	○	他の動物園等との人材交流や研究会等への積極的参加
人が集い活力のある動物園の実現			
新たなターゲット(対象者)に向けた取り組み			
海外からの観光客を対象とした取り組み	○	○	ツアー等の企画、同時通訳の確保、動物園内の多言語表記等
高齢者を対象とした取り組み	○	○	高齢者施設への営業、パスポートのPR、祖父母と孫という観点での取り組み、乗り物整備等
小中高生を対象とした取り組み	○	○	修学旅行の誘致の拡大や専門的な研究会・学習会の実施等
施設向けの企業パスポートによる平日の団体誘致(週末は家族や個人)	○	○	小、中学校、高齢者施設などの団体に営業による平日の誘致
魅力的なイベントの創出			
既存イベントの改善(平日のイベントを増やす等)	○	○	話題性のあるイベントの開発や既存イベント強化等
閑散期(冬場や雨の日等)の集客を考慮した年間のイベント計画(イルミネーション等の冬のイベント等)	○	○	閑散期に来園してもらえる年間イベントの計画及び実施
記念イベントの実施(平成30年度は開園30周年)	○	○	開園〇〇周年記念イベント等特別感を持たせたイベントの実施
安全・快適に観覧できる施設の整備			
獣舎等の施設の計画的な老朽化対策	○	○	計画的な老朽化対策
アメニティ施設の整備	○	○	日陰、休憩施設や園内カート、レストランや売店等の整備
雨天時の対策	○	○	室内でお弁当を食べる場所の確保及びそのことの学校等への情報発信等
トイレの整備・更新		○	入口の新設、全体的なトイレ配置等の見直し
危険木撤去等の樹木の維持管理(樹木診断含む)	○	○	危険木撤去等来園者の安全対策
駐車場の拡張及び区画割の見直し	○		土日等に不足する駐車場の拡張及び区画割の見直し
海外の動物園との連携			
海外の動物園からの動物の導入	○	○	動物の交換等による海外の動物園からの動物導入
検疫施設やバックヤードの整備	○	○	検疫施設の整備やバックヤードの整備
国際種情報システムなどを活用した個体情報の入手	○	○	動物の交換や譲渡等に活用
動物の交換や繁殖に向けた共同研究や人的交流	○	○	積極的な共同研修や人的交流
連携したイベント等の実施	○	○	海外の動物園と連携したイベント等の実施
効果的な情報発信			
パノラマ展示の動物を見せる工夫等の現在ある魅力についてキーパー等の解説等による積極的な情報発信	○	○	キーパーの育成
SNSの活用による来園者からの情報発信を行える環境整備	○		来園者からの情報発信、獣舎ライトアップ、Wi-Fi整備

動物と自然の関わりについて興味を抱かせる動物園の実現			
動物の生息環境整備			
動物の生息環境に合わせた展示施設の整備	○	○	生息環境に近づける展示施設整備等 サル・ヒヒ舎整備に着手(R4～)
学習的・体験的な機能の充実			
動物とのふれあいコーナーや子供動物センターの充実	○	○	家畜等ふれあえる動物の拡充や、癒し(アニマルセラピー等)などの様々な形態のふれあいを実施
学習館等の整備	○	○	博物館・学習館等の整備
昆虫園等の整備	○	○	昆虫園等の整備
バックヤードの見学	○	○	命の教育として飼育環境の見学
レクチャーシステムの導入	○	○	動物園見学の最初と最後にレクチャー
学校と動物園の連携強化	○	○	小学校のカリキュラムへ動物見学を導入
子供動物園の運営に携わる職員、ボランティアの育成	○	○	運営を意識した職員等の育成
キーパーによる解説や解説版の設置による学習機能の充実	○	○	キーパーの育成及び解説板の充実等
体験型解説やセルフガイド等の整備	○	○	スタンブラリー・クイズラリー等の充実
獣医体験	○	○	体験プログラムの開発
VRやARなどのIT技術の活用	○	○	IT技術の活用
希少種の保存に向けた取り組み			
希少動物の飼育と繁殖	○	○	個体数の維持、種の保存に貢献
在来動物の保護及び飼育展示	○	○	日本産、四国産の動物の保護及び飼育展示
愛媛県のレッドデータブックに載っている動物の保護及び飼育展示	○	○	希少動物の保護、繁殖施設の整備による種の保存への貢献
繁殖しやすい環境づくりの推進	○	○	動物病院等の充実
視点を考慮した施設の整備			
キーパー目線や子供目線での施設整備	○	○	キーパーや子供目線の施設整備
視点(高い視点や水中目線等)を変えた施設整備	○	○	視点を変えた施設整備
持続可能な動物園の実現			
資本の強化			
とべ動物園魅力向上基金、企業版ふるさと納税、動物サポーター制等の既存資本の充実・拡充	○	○	積極的なアピール
新たな資本の導入検討	○	○	魅力的なクラウドファンディング等や個別施設のネーミングライツ導入の検討
民間活力の導入		○	多様な事業者の参入による来園者サービスの向上
持続可能な運営体制の構築			
職員(キーパー等)の人事交流	○	○	人材育成のための他園等との人事交流
スキルアップのための研修など組織的・計画的な人材育成	○	○	個人のスキルアップや組織としての実施体制の構築
ボランティア制度の整備(充実)	○	○	ボランティアガイドセンターの充実
AI導入による効率的な運営やサービスの向上	○		システムの開発や情報の蓄積
飼育動物の安定的な確保			
コレクションプランの策定	○		計画策定及び計画的な種の保存
動物の購入、繁殖、ブリーディングローンを計画的に推進	○	○	他の動物園との協力体制の強化
広報・情報提供の充実			
コンセプトを設定した取り組みの統一(共通のロゴを使用)	○	○	統一コンセプトのもと事業実施による訴求効果の向上
案内ガイドの充実	○	○	案内ガイドの充実
WEBやSNSを使用した情報発信の強化	○	○	わかりやすいインパクトのある情報発信
キャラバン隊によるPR活動	○	○	集客施設や集客イベント等におけるPR活動
出張講話や動物の出張などによる動物とのふれあい体験の実施	○	○	県内各所の小学校等へ出向き動物とのふれあい体験等を実施
経営改善			
健全な経営状況を維持するため経費節減に努めるとともに、適切な管理運営に努める	○	○	運営計画の作成及び定期的な見直しによる経費節減

5. 分野別計画

基本方針別に第2期に実施する事業は次のとおり。

【基本方針1】とべ動物園の強みを活かした（独自性のある）動物園の実現

○施策1 運動公園、えひめこどもの城と連携し共同イベントの開催

- ・令和3年3月にオープンした、えひめこどもの城ととべ動物園を結ぶジップラインを核とし、隣接する総合運動公園を加えた「とべもり」エリアについて、連携を強化する。また、親子いきもの調査、食育セミナー、環境学習、イルミネーション等の共同でのイベントの開催や、それぞれの施設におけるイベントにおいて他の施設も訪れてもらうような仕掛けの検討を行う。

○施策2 えひめこどもの城や総合運動公園との円滑な移動手段の確保（※追加）

- ・「とべもり」エリアにおいて、各来園者の移動手段は主に徒歩であり、施設を跨いで自由に行き来するには大きな負担となっているため、共同イベントにも活用できるよう、エリア内を短時間で移動できる園路の整備や手軽に利用できる移動手段の整備を行う。

○施策3 とべの繁殖技術等を活かした希少種、絶滅危惧種の繁殖

- ・とべ動物園におけるアフリカゾウ等の優れた繁殖技術や、県獣であり前身の道後動物園において日本で唯一飼育していたニホンカワウソの飼育展示実績等を活かした希少種、絶滅危惧種の繁殖に努めるとともに、ニホンカワウソの生存を信じて情報収集に努める。

【基本方針2】人が集い活力のある動物園の実現

○施策4 海外からの観光客を対象とした取り組み

- ・ウィズコロナを見据え、近年増加していた海外からの観光客を呼び戻すため、旅行会社等と協力しツアー等を企画するとともに、動物園内の多言語表記等、受け入れ態勢の充実を図る。

○施策5 小中高生を対象とした取り組み（※追加）

- ・教育の場としての活用及び新規顧客の開拓の観点から、コロナ禍で増加している県内や近隣県の修学旅行の誘致の拡大や専門的な研究会・学習会、又、ジップラインを活用したアクティビティを実施する等、小中高生の参加する機会を増やす。

○施策6 閑散期（冬場や雨の日等）の集客を考慮した年間のイベント計画

- ・イルミネーション等の冬のイベントを強化する等、閑散期（冬場や雨の日等）に来園してもらうことを考慮して年間を通じたイベントを実施する。
- ・イベントの実施に際しては、動物の生態を十分考慮し、悪影響を与えることがないように実施する。

○施策7 獣舎等の施設の計画的な老朽化対策

- ・開園後 30 年以上が経過し、獣舎等の施設の老朽化が進んでおり、外見的なイメージダウンが最小限となるように計画的な老朽化対策を行う。

○施策8 アメニティ施設の整備

- ・夏の暑さ対策はリピーターを増やす重要な要素であり、日陰で休憩できるスペースの拡充に努め、軽食等手軽に行えるように整備する。また遠足などの大人数の休憩スペースの確保や、各獣舎付近で座ってじっくり観察できる施設の整備を行い、快適性を向上することにより滞在時間を長くする。
- ・来園者の滞在時間や満足度を向上させるため、園内レストランを中心とした飲食環境の充実を図る。

○施策9 駐車場の拡張

- ・土日等に駐車場が不足する場合があります、駐車可能台数を増やす必要があるため、駐車場の拡張及び区画割の見直しを行う。

○施策10 海外の動物園からの動物の導入

- ・費用面や血統管理の面において有効であるため、海外の動物園と連携し、動物の交換等により動物を導入する。

○施策11 キーパーの解説等による積極的な情報発信（※追加）

- ・とべ動物園の成り立ちや裏話など、動物園の本来の魅力や隠れた魅力について、キーパーが積極的に解説を行うこと等により、来園者に気づきの機会を提供する。

○施策12 SNSの活用による来園者からの情報発信を行える環境整備

- ・園内で写真を撮りSNSでアップしてもらうことは、動物園の情報拡散に繋がっており、動物園に行きたいと思わせる重要な要素であることから、動物園ならではの写真が撮影できる環境(レストラン、夕焼けのきれいな展望等)を整備する。
- ・人気の高いイベント「夜の動物園」や「イルミネーション」を更に盛り上げるため、獣舎をライトアップし設備のイメージアップを図る。
- ・高速通信が可能な5Gに対応した園内のWi-Fi環境の整備を検討する。

【基本方針3】動物と自然の関わりについて興味を抱かせる動物園の実現

○施策13 動物の生息環境に合わせた展示施設の整備

- ・施設整備を行う際には生息地の植物と一体的に整備する等動物が生息している自然環境をできるだけ再現し、動物本来の生き生きとした行動を引き出す。第2期では、サル・ヒヒ舎の整備に着手し、設計に反映させる。

○施策14 動物とのふれあいコーナーやこども動物センターの充実

- ・動物とふれあうことが大切であり、また、ふれあいを求めて来園する人もいる

ため、動物とのふれあいコーナーやこども動物センターの充実を図り、バーチャルではない本物を感じてもらい体験や癒し（アニマルセラピー等）などの様々な形態のふれあいを通じた学習的・体験的な機能を充実させる。

○施策 15 学習館等の整備

- ・動物園が持つべき教育機能を充実させ、死蔵となっているニホンカワウソの貴重な資料を公開展示することは、県獣で動物園のシンボルマークともなっており、日本で唯一飼育実績のあるとべ動物園の使命である。
- ・ニホンカワウソをテーマにした学習施設の整備を行い、建物の名称については、来園者に愛着を持ってもらえるような名称を募集する。

○施策 16 バックヤードの見学（※追加）

- ・命の教育として、飼育のためにどのような環境整備をしているかということを経験館の見学を通じて行う。その際には、動物の負担にならないように工夫して行う。

○施策 17 キーパーによる解説や解説板の設置による学習機能の充実

- ・キーパーによる積極的な来園者への解説や、解説版の増設等により、学習機能を充実させる。

○施策 18 希少動物の飼育と繁殖

- ・現在飼育している個体も含めた希少動物の繁殖に努め、他園とも協力して種の保存に努める。

○施策 19 在来動物の保護及び飼育展示

- ・日本産、特に四国産の動物の保護及び飼育展示を通じて、身近な郷土の動物に目を向け、より多く知ってもらえるよう環境学習を行う。

○施策 20 繁殖しやすい環境づくりの推進

- ・研究機関や保護団体等と連携し、繁殖しやすい環境整備を行う。また、医療器具を購入する等、動物病院等を充実させる。

○施策 21 キーパー目線や子供目線での施設整備

- ・働いているキーパーが面白いと感じる施設や、子供が見やすい施設整備を実施する。

○施策 22 視点（高い視点や水中目線等）を変えた施設整備

- ・視点を変えることにより、動物の様々な生態に気づき、より興味関心を持ってもらうことができるように施設整備を行う。

【基本方針 4】持続可能な動物園の実現

○施策 23 既存資本の充実・拡充（※追加）

- ・とべ動物園魅力向上基金、企業版ふるさと納税、動物サポーター制等の既存資本について、気軽に寄付が出来る仕掛けを検討するとともに、ホームページや園内掲示板により積極的にアピールする。

○施策 24 新たな資本の導入検討

- ・施設整備や動物の導入について、インターネットを活用して個人等から資金を調達する魅力的なクラウドファンディング等の導入を検討する。

○施策 25 組織的・計画的な人材育成

- ・人材育成のため、外部研修への積極的な参加や、計画的な内部研修の実施等個人のスキルアップを図るとともに、組織としての実施体制の再構築など、組織的・計画的な人材育成に努める。

○施策 26 ボランティア制度の充実（※修正）

- ・現在設置しているボランティアガイドセンターについて、来園者へのガイド内容や、ボランティアの受け入れ体制やガイド研修について内容を充実させる。

○施策 27 コレクションプランの更新

- ・現状のコレクションプランについて、飼育動物や施設の状況に応じて見直し、計画的に種の保存を行う。

○施策 28 動物の購入、繁殖、ブリーディングローンを計画的に推進

- ・動物の寿命を考慮して、他園と連携し動物の購入、繁殖、ブリーディングローンを計画的に推進する。

○施策 29 案内ガイドの充実（※追加）

- ・とべ動物園で飼育している動物の魅力を存分に伝えるため、キーパーやボランティア等による案内ガイドの充実を図る。

○施策 30 WebやSNSを使用した情報発信の強化

- ・WebやSNSなどを使用した情報発信について、情報の拡散を目指し、わかりやすいインパクトのある情報発信に努める。
- ・動物解説板にQRコード等を掲示し、個人のスマートフォンで動物の一般的な解説の他、とべ動物園の個体の特徴も含めた最新の情報が紹介できる機能を検討する。

○施策 31 動物とのふれあい体験の実施（※追加）

- ・県内各所の小学校等へ出向き、小動物とのスキンシップや解説、学校で飼育している動物の飼い方などの指導を実施する。

○施策 32 経費節減と適切な管理運営

- ・運営計画を作成し、定期的に内容をチェックし見直しを行う。

6. ソフト・ハード別施策

①ソフト施策

[イベント]

- | | | |
|------------------|-----------------|---|
| ・イルミネーション | (施策 1, 6, 12) | |
| ・季節毎のプレミアムガイドツアー | (施策 16, 17, 29) | |
| ・ふれあいキャラバン | (施策 31) | |
| ・ニホンカワウソサミット | (施策 6, 15) | |
| ・長浜高校水族館とのコラボ | (施策 6) | 等 |

[広告宣伝]

- | | | |
|-----------------|-------------|---|
| ・PR動画作成 | (施策 11, 30) | |
| ・インターネット広告 | (施策 30) | |
| ・Wi-Fi環境整備 (5G) | (施策 12, 30) | 等 |

②ハード施策

[施設整備]

第1期では、アシカ舎の改修が完成し、アクリル板を使用した展示で水中を泳ぐアシカの姿が見られ、大変好評を得ている。このことから、獣舎の整備は動物園の大きなアピールポイントであり、集客に大きく寄与することが認められる。

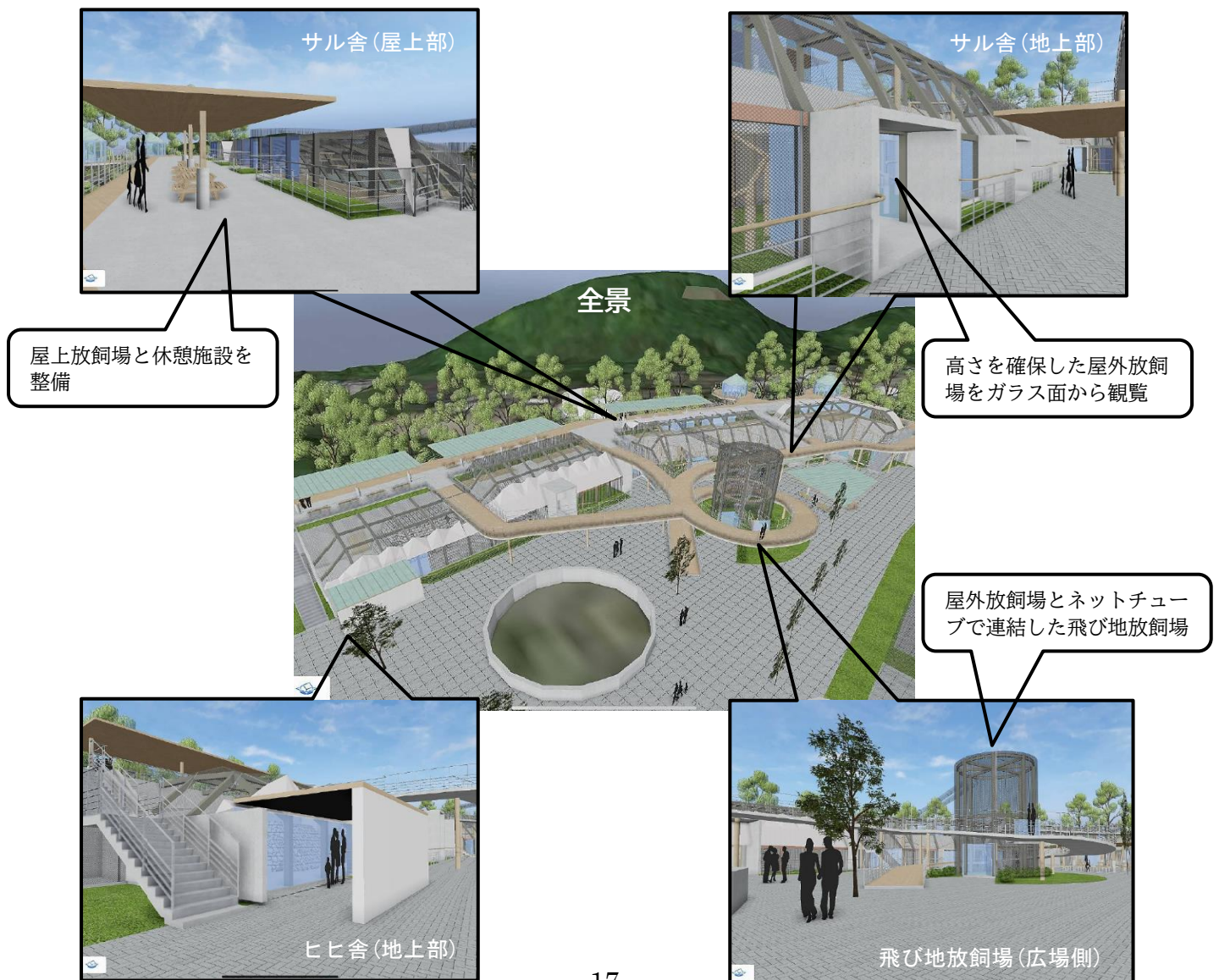
第2期では、第1期で選定した施設の中から、人気の高いサル・ヒヒ舎の改修に向けた設計業務に着手し、第2期期間中の完成を目指す。

(選定施設)

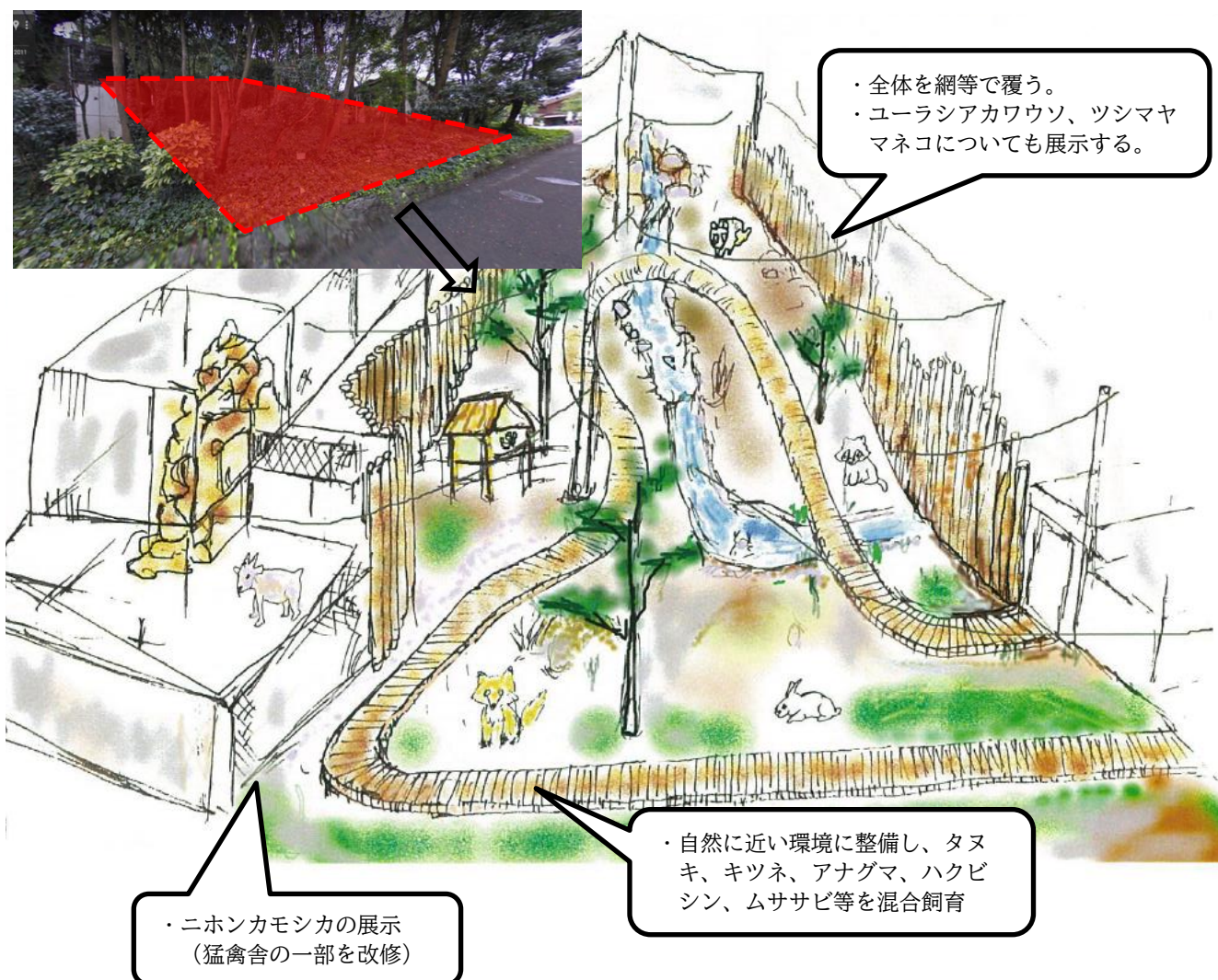
施設名			サル・ヒヒ舎	日本(四国)固有種の動物舎	クマ舎	アシカ舎	ニホンカワウソ館	ふれあい施設
整備概要			・獣舎の高さを高くし、その周辺に観覧用通路と休憩施設を設置する。 ・ガラス張りエリアや飛び地放飼場を設け、サルの自然な動きを間近で観察できる。 ・冬場でも観覧できるように室内展示・寝室を整備する。	(新設) ・ニホンカモシカなど、日本固有種の動物を混合飼育 ・施設をケージで囲い、その中に小川や樹木を整備し、里山の環境を復元 ・遊歩道を設置し、獣舎内を散策しながら観察できる施設	・檻からガラス展示に変更し、近接して観察できる施設 ・マレーグマ舎は、暖房設備等を整備したり、土のグラウンドや樹木を整備したりする等飼育環境を改善	・アクリルを利用した展示で、水中を動き回る姿が見られる施設 ・人気のペンギン舎に隣接しており、相乗効果でエリアとしての魅力向上が期待できる。 整備済み	・こども動物センターを改築して、広い展示室や資料室、レクチャールームを整備 ・世界で唯一飼育実績のあるニホンカワウソの貴重な資料を提示 ・ソフトとハードの両面でニホンカワウソの聖地化を図る	(新設) ・ポニー等の乗馬ができる屋外施設を整備 ・天候に左右されず、小動物とふれあえる屋内施設を整備 ・モルモットの成長過程を展示 ・カフェや休憩所の整備
報告書	評価項目	レクリエーション					○	○
		教育	○	○	○	○	○	○
		繁殖		○	○	○		
		調査研究	○	○	○	○	○	
		動物福祉	○	○	○	○		○
		老朽化	○		○	○	○	
行動計画	ニュース化		○	○	○	○	○	○
	対象	若者	○			○		○
		外国人		○				○
近隣における新規性			○	○		○	○	
人気(アンケート)			○			○		
整備の優先度			○	○	△	◎	△	△
備考			※R3年度設計着手		・マレーグマはBLにより搬入した若い個体が繁殖適齢期。	・アシカは若い個体が複数おり繁殖が期待できる。		整備先としている遊具跡地は、各獣舎改修時の仮獣舎スペースとして使用予定

サル・ヒヒ舎改修	(施策 7, 13, 21, 22)
概要	・サル・ヒヒは種類が多く、来園者アンケートによると人気のある動物の一つであり、従来の比較展示に対応した高さの低い檻による長屋構造を解消して開放的な獣舎にすることにより、生き生きとした動きを引き出し、人気エリアの更なる魅力向上を図る。 ・獣舎の高さを高くし、その周辺に観覧用通路と休憩施設を設置する。 ・ガラス張りエリアや飛び地放飼場を設け、サルの自然な動きを間近で観察できる。 ・冬場でも観覧できるよう室内展示・寝室を整備する。
整備方針	○展示の工夫 展示室の空間を広く取り、回遊性を持たせた観覧通路を配置し、見る人が散策、探検できる楽しみのある施設とする。また、飛び地放飼場を設け、サルが頭上を移動する姿など様々な角度から観覧できるようにする。また、屋上にはゆっくり見て回れるよう休憩スペースを設け、観覧者を滞留させる。 ○飼育環境の改善 種を絞ることで飼育スペースを確保し過密状態を解消し、また、より生息域に近い環境を再現し、生き生きとした動きを引き出す。その結果として繁殖の期待が高まる。

イメージ図（構想）



日本（四国）固有種の動物舎（仮）新設	（施策 13, 19, 21）
概要	・ニホンカモシカ等の日本（四国）固有種の動物について保護し展示する施設を整備する。（地域の動物は地域で守る） ・知っているようで知らない、地元の動物の生態にあらためて目を向けてもらい来園者の気づきを促し、愛着を持ってもらう。 ・施設をケージで囲い、その中に小川や樹木を整備し、里山の環境を復元した中で、固有種の動物を混合飼育する。 ・遊歩道を整備し、通り抜けできるようにする。
整備方針	○全国的に人気の施設 柵なしで動物を間近に観察できる施設は全国的に人気で、動物が暮らしている世界に足を踏み入れたかのような感覚になり、動物とのふれあいに近い体験ができる。『生きているミュージアム ニフレル』（大阪府）では、柵がなく、小動物が自由に動き回る施設が人気。 ○フォトジェニックな施設 間近に動物の写真が撮れたり、動物と一緒に写真が撮れたりするとともに、SNS等による拡散も期待できる。 ○環境教育に資する施設 里山の環境を復元し、そこに生息している固有種の動物を混合飼育することにより、身近な動物への興味を促すとともに、人間と動物の関係性、環境の変化による動物生態への影響、開発と保全のバランス等について考えさせることができる。



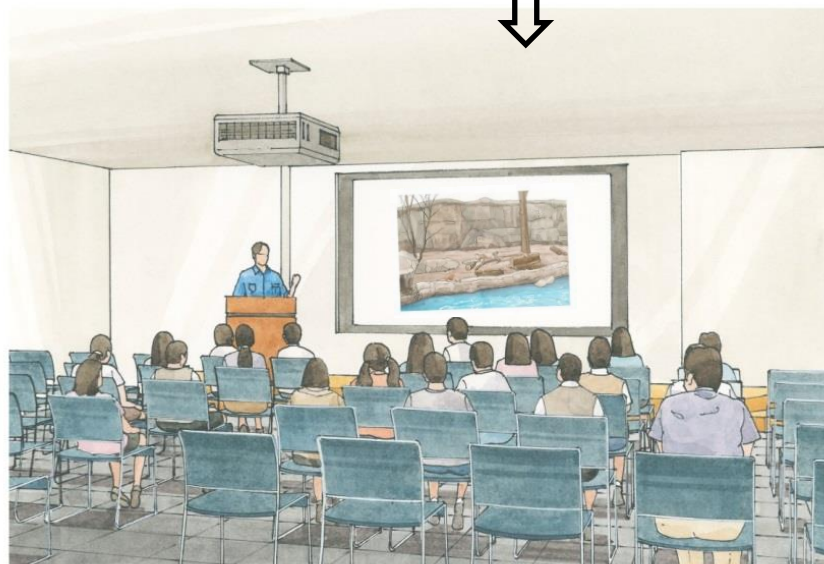
クマ舎改修 (施策 7, 13, 21, 22)	
概要	・ ホッキョクグマのピースの外、マレーグマなどの生き生きとした姿を見せることにより、ベアストリートのエリアとしてイメージアップを図り、ピースの人気を更に高める。 ・ 来園者等からの要望が強い、現在の檻による長屋構造をガラス展示に変更する。人止め柵がなくなり、獣舎を拡張できる。 ・ マレーグマは、ブリーディングローンにより搬入した若い個体が繁殖適齢期を迎えており、繁殖を図るためには施設の改修が必要。
整備方針	○展示の工夫 現在の狭い檻が並ぶ長屋構造をガラス展示に変えることにより、近接して観察することができるとともに、ガラス越しに手を合せたり、視線を合わせたりすることもでき、また、ツーショット写真を撮ることもできる。 ○繁殖の期待 マレーグマについて暖房設備を整えたり、土のグランドや樹木を整備したりする等、飼育環境を改善させ、より生息域に近い環境を再現することにより、繁殖の期待が高まる。



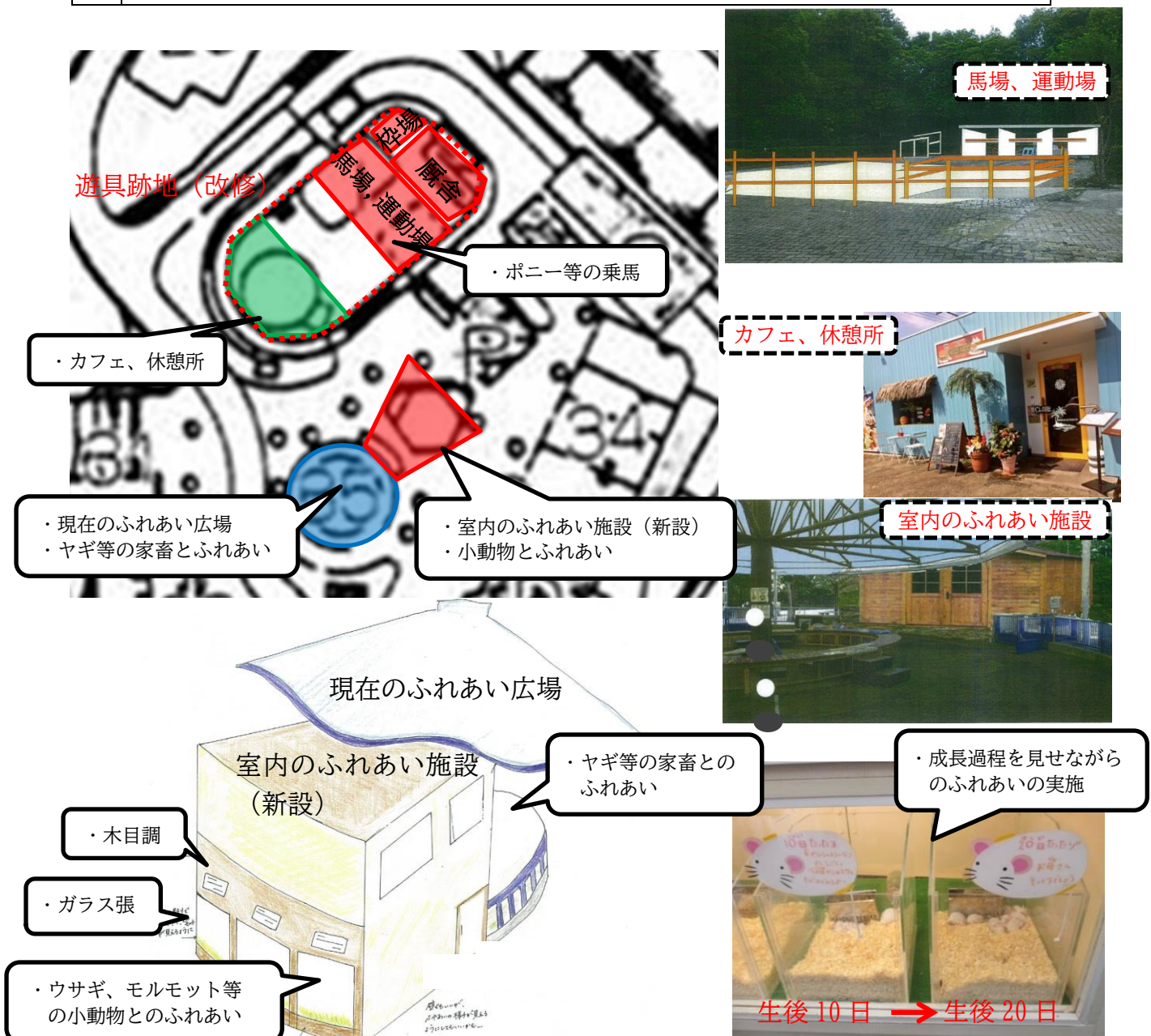
〔イメージ〕



ニホンカワウソ館（仮）整備（施策 15, 19）	
概要	・ニホンカワウソは、愛媛県の県獣であり、とべ動物園のシンボルマークともなっている。また、とべ動物園は世界で唯一ニホンカワウソを飼育した実績があり、飼育時の貴重な資料を保管している。これらを県民に提示し、伝えていくことはとべ動物園の使命である。 ・学習機能を有し、ニホンカワウソの資料を一部展示していることも動物センターを改築して広い展示場、資料室やレクチャールームを整備する。
整備方針	○ニホンカワウソの聖地化 とべ動物園では、ニホンカワウソに特化した施策として、今後、ニホンカワウソサミット（学術的な会合、ニホンカワウソをまちづくりに活用している自治体の交流等）の開催や、ニホンカワウソに関する動画作成などを検討することとしており、ソフトとハード両面で、とべ動物園をニホンカワウソの聖地にしたいと考えている。また、県内のニホンカワウソの関連施設と連携して、ニホンカワウソの聖地巡りを計画しており、そのゲートウェイとしての拠点になりうる。 ○環境教育 昔は身近に生息していたニホンカワウソが、なぜこれほど激減したのか、その激減に人間の生活がどのように関与したのか、これから我々はどうすればよいのか、等を考えさせることができる。また、雨の日でも利用できる施設である。



ふれあい施設拡充	(施策 13, 14)
概要	・動物とふれあうことが大切であり、また、ふれあいを求めて来園する人もいるため、ふれあい機能の拡充を図る。 ・天候によりふれあいを中止することがないように、来園者のニーズに応えられるよう室内のふれあい施設を整備する。
整備方針	○動物や来園者に優しいふれあい 動物福祉の観点（動物の低温及び高温ストレスを避ける）及び来園者の満足度向上のため、室内でもふれあいが行える施設の整備を行う。これにより、天候に左右されない、安全で確実な動物とのふれあいを行うことができる。また、ふれあい施設及び園内各所に日陰で休憩できるスペースの整備や暑さ対策設備等の導入を図る。 ○ふれあい機能の拡充 室内では小動物と、現在のふれあい広場ではヤギ等の家畜とふれあいを行い、遊具跡地においてはポニーの乗馬ができるようにする。 ○教育的な視点を踏まえたふれあい 小動物については、モルモットの成長の過程を見せながらのふれあい等、教育的な視点も取り入れたふれあいとする。



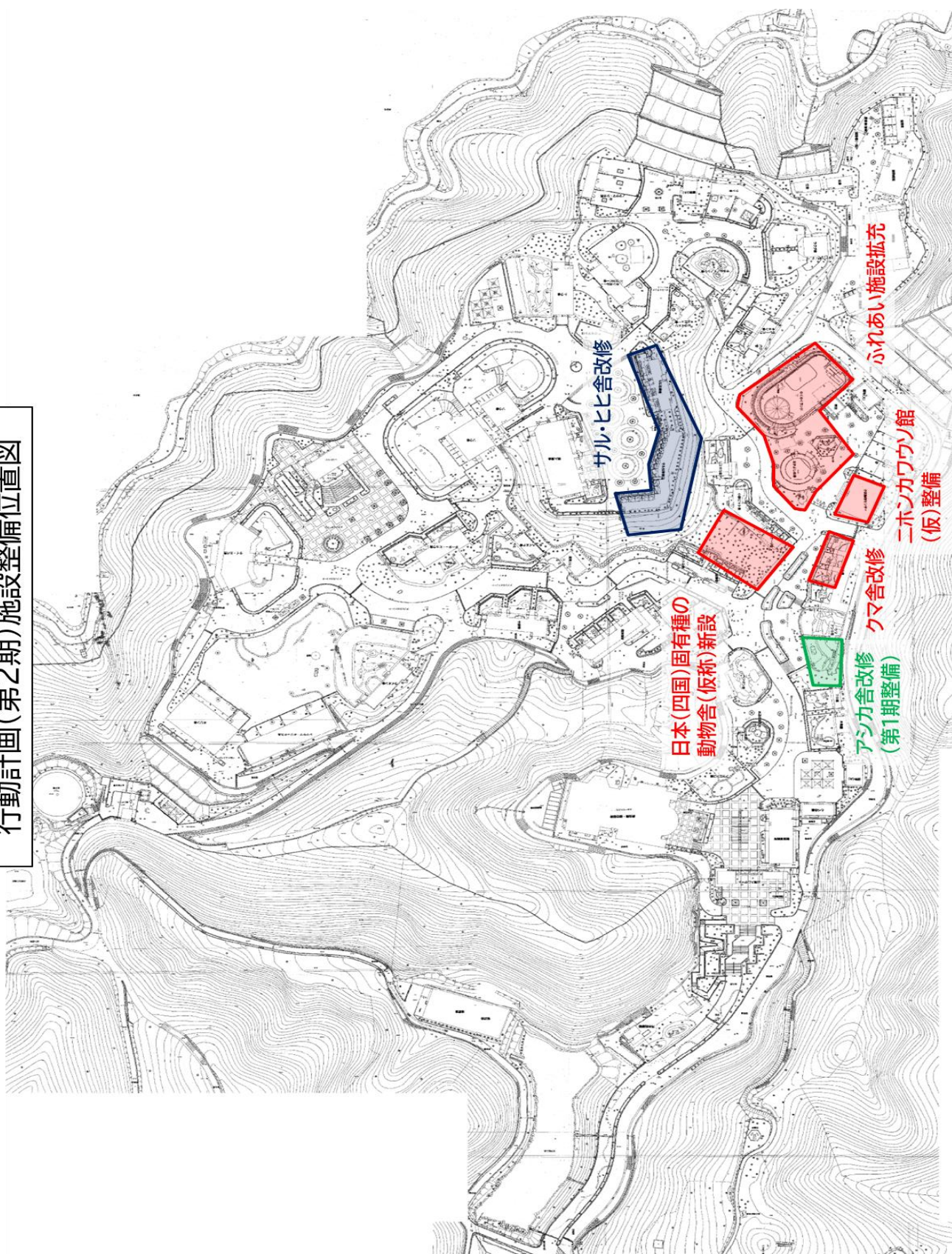
[観覧環境整備]

◎園内の多言語表記	(施策 4, 17)	
◎休憩施設整備	(施策 8)	
◎レストラン等飲食施設の整備	(施策 8)	
◎ミスト散布施設	(施策 8)	
◎水遊び場	(施策 8)	
◎駐車場の拡張	(施策 9)	
◎インスタポイント	(施策 12)	
◎獣舎ライトアップ	(施策 12)	
◎解説版の増設	(施策 4, 17)	等

[その他]

◎動物の導入	(施策 3, 10, 18, 27, 28)	
◎医療器具の購入	(施策 20)	
◎オリジナルメニューの開発	(施策 8)	
◎新たな資本の導入検討	(施策 24)	
◎人材育成（外部・内部研修）	(施策 25)	
◎適切な管理運営（運営計画の定期的な見直し）	(施策 32)	
◎ボランティア制度の充実	(施策 26)	等

行動計画(第2期)施設整備位置図



7. 年次計画

年次計画

() 書きは施策番号

	令和4年度												令和5年度												令和6年度											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
全体	発展期(とべ動物園ブランドの強化と定着、リピーターの増加)																																			
	魅力的な観覧環境整備によるニュース化 魅力的な獣舎整備によるニュース化																																			
ソフト事業	ふれあいキャラバン(③) プレミアムガイドツアー(⑬⑭⑮) イルミネーション(①⑥⑫)												年間を通した魅力的なイベントの継続実施(⑥)																							
	インターネット広告(⑩)												WebやSNSを活用した情報発信(⑩)																							
ハード事業													(設計・工事)																							
													サル・ヒビ舎改修(⑦⑬⑭⑮)																							
	園内の多言語表記・案内板の整備(④⑪)																																			
	休憩施設整備(⑧) 飲食施設整備(⑧)																								駐車場の拡張(⑨)											
	獣舎のライトアップ(⑧⑫)																								水遊び場・ウォータースライダー(⑧) インスタポイント(⑫)											
動物導入等													動物の導入(③⑩⑬⑭⑮)																							
													医療器具の購入(⑫)																							
その他	オリジナルメニューの開発(⑧)												オリジナルメニューの販売促進(⑧)																							
													新たな資本の導入(⑫)																							
													人材育成(⑮)																							
													ボランティア制度の充実(⑯)																							
													適切な管理運営(⑳)																							